

聖書日課 『からし種』 2020.8.23—8.30

<p><b>8月23日</b> <b>(日)</b></p> <p>詩編 16編</p>	<p>「わたしは絶えず主に相対しています。主は右にいまし／わたしは揺らぐことはありません。わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います」(8—9節)。主がいつも私たちの右にいて、主の平安(シャローム)で支えて下さる。今日も主がわたしに必要な「分」を備えて下さり、今日一日を生きる力を備えて下さる。</p>
<p><b>24日</b> <b>(月)</b></p> <p>詩編 17編</p>	<p>「あなたの道をたどり／一步一步、揺らぐことなく進みます。あなたを呼び求めます。神よ、わたしに答えてください」(5—6節)。主に従いたいと思いつつも、主の戒めから離れ歩むわたしたち。それでも、主の道を祈り求めながら、その道を一步一步それることなく歩みたいと願う。主に祈り、主の道を進む先に、わたしたちの喜びがあることを期待して歩みたい。</p>
<p><b>25日</b> <b>(火)</b></p> <p>詩編 18編</p>	<p>「主よ、わたしの力よ、わたしはあなたを慕う。主はわたしの岩、砦、逃げ場／わたしの神、大岩、避けどころ／わたしの盾、救いの角、砦の塔」(2—3節)。この地での歩みは、主により頼んでも、困難な出来事ばかり。そのようなわたしたちの歩みに主が、わたしたちが心休める避けどころ、わたしたちの盾として一緒にいてくださる。</p>
<p><b>26日</b> <b>(水)</b></p> <p>詩編 19編</p>	<p>「どうか、わたしの口の言葉が御旨にかなない／心の思いが御前に置かれますように。主よ、わたしの岩、わたしの贖い主よ」(15節)。全てを司っておられる神の戒めを破り、罪を犯してしまうわたしたち。神さまは、わたしたちが主の道に委ねて歩めるようにと、揺らがないように岩としてわたしたちを支え、わたしたちの祈りに心を向けておられることに感謝して。</p>

聖書日課 『からし種』 2020.8.23-8.30

<p><b>27日</b> <b>(木)</b></p> <p>詩編 20編</p>	<p>「今、わたしは知った／主は油注がれた方に勝利を授け／聖なる天から彼に答えて／右の御手による救いの力を示されることを」(7節)。主なる神は、油注がれた方(王)に主の勝利の全権を託された。主は、イエス・キリストに主の勝利を託し、わたしたちのもとに送ってくださった。主の勝利は、力による支配ではなく、主の平和(シャローム)。</p>
<p><b>28日</b> <b>(金)</b></p> <p>詩編 21編</p>	<p>「主よ、王はあなたの御力を喜び祝い／御救いのゆえに喜び躍る」(2節)。国の為政者、リーダーである王は、主によって立てられた。王が主から託されたのは、わたしたちが主をあがめ、主の力ある御業をたたえ、礼拝者として歩むことができるように導くための力。「我らは賛美の歌をうたう」(14節) 共同体としてあゆめるように、祈り合うことができますように。</p>
<p><b>29日</b> <b>(土)</b></p> <p>詩編 22編</p>	<p>「わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず、呻きも言葉も聞いてくださらないのか」(2節)。十字架の上のイエス・キリストの最後の叫び。神が遠く、見捨てられていると感じてもなお、神の息吹をいただいていることに感謝しつつ、キリストの福音を次の世代へと語り伝える働きに招かれているのだろう。</p>
<p><b>30日</b> <b>(日)</b></p> <p>詩編 23編</p>	<p>「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い、魂を生き返らせてくださる」(1-3節)。酷暑の夏、肉体にとって水分補給が不可欠なように、たましいにとっては主からいただく「憩いの水」が欠かせない。たましいの脱水症状にならないように、真の羊飼いである主から今日も「憩いの水」をいただく</p>